



今月の農家さん

親しみある農業を

野洲市六条

辻 厚志さん (35才)

本格的に農業を始めて6年になる辻さん。

野洲市青年農業者クラブの会長のほか、地域の出荷組合の役員としても多忙な日々を過ごし、小学生向けの収穫体験や、「ひまわり迷路」などのイベントを開催するなどして、農業に普段関わることのない人々に、親しみを持って農業に触れてもらうための活動に取り組んでいます。

以前はサラリーマンをされていたのですが、多くの知り合いが農業をしている姿を見て、自分も始めようと思ったそうです。

キュウリやホウレンソウ、シュンギクなどをハウスで栽培するほか、およそ1haの田んぼを作付しています。

農業の魅力は、自分のペースでできることや、地域と密着することで横のつながりがあることですが、去年から祖父に代わって作付などの計画を自分で決めていくようになってからは、責任感と大変さも感じています。

「野洲市青年農業者クラブのイベントを通じて、誰もが楽しく農業に触れることができる機会を作っていきたいです。また、新規就農者の受け皿として、地域の出荷組合をこれからも残していきたいよう頑張っていきたいですね」と、笑顔で話してくださいました。



■水稲

平成30年産水稲栽培に向けた土づくりについて

「稲は地力でとる」といわれるように、水稲を栽培する上で土づくりは最も大切な作業です。土づくりを行うと、稲体の活力維持、玄米の登熟向上等により、米の品質向上・収量増大が期待できます。

稲わらをすき込むと、稲わらは土壌中で分解されて腐植となり、土壌をやらわらかくし保肥力を高めます。

また、稲わらにはケイ酸が多く含まれており、稲の茎葉を硬くして倒伏や病害虫に対する抵抗力を高めます。

稲わらのすき込みは有機物の分解を促すため、できるだけ年内に行います。

土づくり肥料の散布は、玄米の品質向上・収量増大に寄与するだけでなく、近年食の安全を脅かしているカドミウムの吸収を抑制することができます。

カドミウムは、土づくり肥料を散布し土壌のpHを高めることによって、食物の根から吸収されにくい状態になります。

そのようなことから平成30年産水稲には、必ず土づくり肥料を散布し、カド

ミウム吸収抑制対策を実施しましょう。

■大豆

大豆の収穫について

大豆の成熟期は「葉が完全に落葉し、茎の大部分が褐変し、子実が品種特有の色を呈して、茎を振ればカラカラと乾いた音がする時期」です。

汎用コンバインによる収穫の時期は、成熟期から一週間以上過ぎ、ほ場での乾燥を促進させて、茎がポキッと折れる頃です。ただし、茎水分が下がった収穫適期であっても朝露が残っている時刻（天候条件、地域にもよるがおおよそ午前10時以前）の収穫は汚損の発生割合が高くなりますので、朝露の無くなる日中に作業を行いたいです。

また、イヌホオズキ等の雑草が混入すると汚損粒が発生しやすいため、事前に雑草や青立ち株を除去しましょう。

